NEWSLETTER/Mosaic Art Association in Japan

モザイク通信

No.116 2020 May

発行／モザイク会議　議長　森敏美
モザイク会議事務局：〒185-0012 東京都国分寺市本町 4-12-4 司アートシティ 104
モザイク会議ホームページ：http://www.maa-jp.com/　Email:maaj@maa-jp.com
編集／作成：モザイク会議運営委員会

総会中止

新型コロナウイルス流行の影響でモザイク会議も
今年度の定時総会を中止しました。

前年度の会計報告と今年度の活動予定を報告します。

1）令和元年度会計報告　同封の会員向け収支報告をご覧ください。
2）令和元年度活動報告　モザイク通信 110 号～ 115 号発行
　　モザイク展 2019（あざみ野）開催
3）　令和 2 年度予算案　同封の予算案をご覧ください。
4）　令和 2 年度活動案　モザイク展 2020（オリエギャラリー 9/28 ～ 10/2）
　　この展覧会の開催は考慮中です。
　　8 月 15 日が参加申し込み期限なので、8 月初旬を
　　開催決定の最終期限として運営委員会で検討します。
　　決定の結果は葉書で連絡します。
　　オリエギャラリーでの展覧会が中止のばあいでも、
　　制作した作品を発表する機会は確保したいと考え
　　ています。

松本治子さんが新運営委員として協力してくれることになりました。

多治見モザイクタイルミュージアムで５月 10 日まで開かれたモザイク展
「世界のモザイク・今」はウイルスのために４月中は休止していました。
そのため、ミュージアムでは展覧会の**延長**を決めました。
新しい展示期間は、休館が明けた日から９月６日（日）までとなりました。

展覧会会期中に、碧亜希子、桜井拓也、：曽根研によるワークショップならびに喜井豊治によるモザイクの歴史概略のスピーチなどが予定されていましたが、すべて延期されました。

モザイクマガジンの最新 19 号が先月発行されました。
一冊 2500 円です。ご希望の方は喜井までメールか電話で連絡ください。

年会費の振り込みをお願いします。
振込先は以下のとおりです。

ゆうちょ銀行口座記号：10000　番号：97185511
名義：モザイク会議
ほかの銀行からの振込のばあいは以下のようになります。
ゆうちょ銀行　店名：008（ゼロゼロハチ）　店番：008　普通預金口座：97185511
名義：モザイクカイギ

モザイク in カリフォルニア

アメリカ在住会員・木下綾

私は5年前、美術館マネジメントの研究滞在を機会に南カリフォルニア（ロサンゼルス郊外）に拠点を移しました。アートとの関わりが大きく変わるきっかけとなりました。それまではアーティストと仕事するのが楽しく、芸術財団や画廊、劇場、美術館で仕事をしていました。当時、ロサンゼルスでは新しい美術館や画廊が次々オープンしており、アート・シーンの話題は尽きなかったのですが、一方で生活の一部になっている「アート」の裾野の広さに触れているうちに、私自身が作ることを始めるようになったのです。

こちらでは学問と同様にアートも年齢を問わず学べる様々な組織やプログラムがあり、ちょっとやってみようかな、と大人（私の場合は中年！）になってからも気軽に始められる機会がたくさんあります。市などが運営しているセンターから大学の美術学科や個人経営の教室まで、働きながらでも時間や予算、目的に合わせて絵画、彫刻、彫金、陶芸、織物など、趣味としても本格的にも学び作り続けられる場があります。

1.「カリフォルニア・ドリーミング」

モザイクを始めた頃の作品

2. キャサリン・イングランドのスタジオ

車庫をスタジオにしているアーティストは多い。

私が通った地元のキャサリン・イングランドのモザイク・スタジオ www.katherineengland.com は、単発の週末ワークショップと平日夜に週一回通うレギュラー・クラスの二本立てになっており、初心者から作品を販売しているようなベテランまで年齢も経験も多様な人たちが通っています。週末には特別なテーマ、材料、技術に絞った内容や、アメリカ各地、時にはイタリアからのゲスト講師のワークショップもあります。このような小規模な個人経営のモザイク・スタジオは全米にいくつもあり、人気のあるアーティストは各地のスタジオを巡りワークショップ（1クラス 10−12 人、2−3 日、受講料 300-500 ドル程度）を開いています。

3. デトロイトのスタジオ

ドナ・ヴァン・フーセーの動物ポートレート

ワークショップ。女性ばかりというのは、よくある景色

4. キャサリン・イングランド（右）

また、スタジオ経営しているアーティストの中には、予算も規模も大きいパブリック・アートの仕事をコンペなどで獲得している人もいます。むしろ、そちらがメインになっているアーティストもこの地域だけで何人か知っています。カリフォルニアでも、新旧含め、モザイクの壁画やベンチ、彫刻など、結構見つけることができます。

現在モザイクを教えているアーティストのほとんどが、モザイクを学ぶ学校（アメリカの大学でモザイク学科があるところはまだ聞いたことがありません。）もスタジオもネットもない環境で、孤独に試行錯誤を繰り返して身につけてきた人たちなので、失敗も含め経験が豊かで個性的で魅力的な（＝面白い）人ばかりです。

その孤軍奮闘の結果かもしれませんが、モザイクのコミュニティは、それぞれは小さく全米に点在しているとはいえ、非常に密に繋がっています。このネットワークが大きな機動力となって、SAMA（アメリカ・モザイク・アーティスト協会）を始めモザイク業界の協力と発展が進んでいるといえるでしょう。モザイクだけでなく、織物なども同じようにコミュニティが点在しているようです。どちらも、アートとクラフトのファジーな領域で、そんな垣根にとらわれず面白い試みをしているアーティストたちがいる、というのが私の印象です。カリフォルニアで出会ったモザイクの世界は、とても自由で新鮮に見えるのです。

5. キャサリン・イングランドのパブリック・アート
フューズド・グラスを活用した壁画制作

7. セリトス図書館のモザイク
テリー・ブラウンスタイン（彫刻家）の作品。